

2026 年 8 月 14 日
株式会社オンザページ
代表取締役会長 CEO 渋谷守浩
(東証スタンダード：9160)

決算説明会質疑応答書き起こし公開のお知らせ

開催日時 : 2026 年 8 月 14 日 (金) 16 時 00 分～17 時 00 分
本件に関するお問合せ先 : 株式会社オンザページ IR 担当
お問合せフォーム : <https://onthepage.jp/ir/support/contact-us/>

【書き起こしに関する注意事項】

本書き起こしには、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、決算説明会開催日時点の情報に基づいて作成されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知および未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。

本書き起こしは、情報提供のみを目的として作成しております。また、日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。

なお、本書き起こしの内容は、個人情報等への配慮、可読性への配慮、内容の重複した質問の統括、決算及び事業に関する質問の取捨選択を行っていることから、説明会での実際の質問内容、回答内容とは一部異なる記載をしております。

質問

旧エスクリ社における 2026 年 1 月から 3 月の実績を前年同期と比較した際、売上高は大きく変動していない状況で利益率が大きく改善した理由を教えてください。TKP 社との協業による影響なのか、それ以外の影響によるものかも併せて教えてください。

2020 年 10 月には TKP 社と共同ブランド『CIRQ（シルク）』を立ち上げました。その時期から、TKP 社との相互送客は実施しており、法人需要の取り込みについては一定の効果が出ていることは事実です。そのほか、コストの削減や建築領域における工事進行基準による売上・利益の計上が、利益率伸長の主要因です。

ご参考：CIRQ 公式サイト（運営元：株式会社ティーケーピー）

<https://www.cirq-hall.jp/>

質問

旧ノバレーゼ社が子会社として保有していた機能について、旧エスクリ社の各部門をこれらの子会社へ移管・統合していく方針なのか、展望を教えてください。

衣裳領域も含め、内製化を促進していく方針は変わりございません。なお、引出物については既にタイムレス社へほぼ 100%移行済み、写真部門については旧エスクリ社の写真チームがマリーマール社へ出向している状況です。装花部門については、共同仕入れの仕組みを構築中となっており、今後展開していくことを想定しています。

質問

旧ノバレーゼ社出身、旧エスクリ社出身それぞれの営業本部の取締役から、今回の統合を通じて気付いたこと・学んだことを教えてください。

① 小林 雄也（取締役執行役員営業本部長／旧ノバレーゼ出身）

建築部門を持つ旧エスクリ社との統合により、高騰する建築コストの内訳を理解しコストダウンが図れるようになったことに加え、ブライダル事業における営業面での細かい単価目標設定や打合せのノウハウからは、学ぶことが非常に多くありました。統合からの数カ月間で、オンザページとして両社の持つ強みや特徴を活かせることを確信しています。

② 藤原 成裕（取締役執行役員営業副本部長／旧エスクリ出身）

旧ノバレーゼ社の出店戦略（地代家賃を抑えつつもロケーションの良い立地への出店、各店舗のデザインや設計に明確なストーリーを持たせる考え方など）が、競合優位性を生んでいることを改めて実感しました。また、各店舗が持つストーリーの再設計や内装の見直しを適宜進めるなかで、学ぶことは非常に多く、今回の統合に強く意義を感じております。

③ 笹岡 知寿子（取締役執行役員営業副本部長／旧ノバレーゼ出身）

旧ノバレーゼ社の強みとしては、ゼロからイチを生み出す発想力があると考えています。一方で、旧エスクリ社の強みとしては、決定事項を全社で仕組み化する組織力の高さだと捉えています。スピードと物事を深掘る力、リスク管理を伴った機動力において、私も学ぶことが多くあります。強みや魅力に両者の違いはあれども、新郎新婦様だけではなくゲストも巻き込み、ワンチームで結婚式をつくるという共通のゴールに向かっていることを、日々実感しております。今後、さらなるシナジーが生まれることに私自身も大きく期待しております。